

大池

文化祭へお越しく下さい ～ステージ発表の準備や作品作りが進んでいます～

10月19日（土）に行われる文化祭に向けて、子どもたちはステージ発表の準備や作品作りを行っています。1年生から6年生までが、それぞれの思いを込めて、絵を描いたり、歌やリコーダーの演奏をしたりして、自分らしさを発揮しているところです。文化祭での発表は、いろいろな人の発表を見聞きすることで、自分以外の人の良さに気づくことができます。それ以上に大事なことが、自分のもっている良さやすばらしさに気づくことだと私は思います。

自分の作品や発表に自信をもって、晴れ晴れとした気持ちで文化祭を迎えてほしいと思います。

たくさんの方から子どもたちの発表を見に来ていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。担任教師と子どもたちが様々な工夫をしながら創り上げた素敵な作品を楽しみにしててください。



第2回学校運営協議会開催

去る9月27日（金）に本年度第2回の学校運営協議会が行われました。主な議題は、前期学校評価、地域交流部会と活動支援部会の報告でした。

学校評価では、いきいき明治っ子アンケートの結果をもとに、うまくできていることを確認し、問題点についての改善策が話し合われる中で、話題の中心はメディアに関するものでした。これは明治小学校だけでなく、全国的に問題視されていることです。学校でも指導しますが、各家庭や地域でも話題にして、よりよいメディアとのつきあい方について考えていきたいものです。

さらに今回の話し合いの中に、SWOT分析というものを取り入れてみました。これは学校を取り巻く様々な因子を分析し「見える化」することで、より効率よく活動の改善を図るための手法です。これをもとに今ある環境や人材を最大限に活用しながら、よりよい教育活動を目指していきます。

明治小学校 SWOT分析	
強み (Strength) 少人数のよさ 教師の目が行き届く、指導がしやすい。 ひとりひとりに活躍の場がある。 学びに細心の活動、協力ができる。 活動の修正がしやすい。 多くの職員がわかることができる。 子どものよさ お互いのことをよく理解している。 男女年齢等、バランスがよい。 職員構成 仕事に熱い、誠実、和がしっかりしている。	弱み (Weakness) 少人数の弱さ (人間関係の固定化、やや強制的、保守的、コミュニケーション) 行事、活動のマンネリ化。 生活科、総合の力やチームの充実不足。 → 地域とのつながりが弱い。 施設、設備の老朽化。 教員数が少ない、(情報、IT)不足、(仕事量の多い、多忙化)
機会 (Opportunity) 保護者、地域が協力的。 学校への関心、期待が大きい。 生徒が豊かで学びの場が多い。 スクールバスがあるので活動がしやすい。	脅威 (Threat) 高齢化、人口減少が進んでいる。 他校や地域の情報の取りこぼし。 → 活動が固定化してしまう。 ・店、消防、病院が遠い。

明治小学校を取り巻く環境の分析

生育環境が人をつくる

近年、様々な事件を報じる新聞等の記事に、「衝動的・短絡的」という言葉を見かけます。私たちの生活に「辛抱・我慢」がなくなっていることがその要因としてあげられています。中でも、人間の感情の抑制などをつかさどる脳細胞、特に前頭葉の働きが低下が大きく原因しているようです。

大人社会でも問題になっている『切れる』という現象については、実験によってかなり分かってきています。結論から言うと、脳の前頭葉の機能が低下していて、それによって行動の抑制が効かなくなっているのです。

私たち日本人は、高度経済成長や科学技術の進展の流れに乗って、物質的な豊かさや生活の利便性を追い求めてきました。今や私たちの身の回りのほとんどのものが機械化され、スイッチひとつでほとんど用を足すことができるようになりました。

しかし、その一方で、体を動かしたり汗をかいて働いたりすることを疎んじる傾向が見られるようになりました。また、生活形態も核家族化や孤立化が進み、地域社会も共同体としての意識が希薄になってきています。

そんな中、日本の子どもたちを取り巻く環境も変化し、多様な人々とかかわる機会や自然とふれあう機会が少なくなっています。それに反比例してテレビやゲームなどとかかわる時間が増えており、今や日本の子どもたちのメディア視聴時間は、OECD加盟国の中で断トツのトップです。最近では、ゲームと前頭葉の機能低下との因果関係も指摘されています。

自分の思い通りにならないと感情をコントロールできなくなり、相手の気持ちを考えずに衝動的に行動してしまう自己中心的な子どもが増えてきています。自己中心的な行動は幼児期の特徴として発達心理学に示されていますが、近年は少年期になってもその傾向が残っている子どもが少なくありません。さらには、社会人となってもなお感情を抑えられず、大きな事件を引き起こしてしまう人も出てきています。集団生活のルールを守れず、他とトラブルを起こしてしまう人が社会全体で増加しつつあります。

人間は、自然や様々な人々と共存しながら社会生活をしていかなければなりません。そのため、様々な人々や物とのかかわり方を身に付けていくことは重要な発達課題です。多様な人々とかかわりながら生活するとき、自分と異なった価値観や考え方などに接し、自分の考え方を広めたり、感情をコントロールするスキルを身に付けたりしていきます。また、自然とふれあいながら生活するとき、人間の思うがままにならない自然の驚異や偉大さ、自然の営みの神秘さなどを学んでいきます。

子どもから大人へ成長していく過程は、単に身体的に大きくなるだけではなく、好ましい人間関係や社会性などを備えた社会人として成長していく過程です。

子どもたちが健全に成長していくための環境づくりは、私たち大人の重要な役割です。今こそ学校と家庭と地域社会が力を合わせ、連携して子どもたちを育てていく大事なときです。ともに頑張りましょう。



大蒲生田で栗拾いを楽しむ4年生児童



中学生・地域の方々とのあいさつ運動